

ヒラズハナアザミウマの薬剤感受性	
【要約】2023 年および 2024 年にイチゴ圃場等から採集したヒラズハナアザミウマの薬剤感受性を調査した。その結果、スピノサド水和剤、スピネトラム水和剤、フルキサメタミド乳剤、脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤は特に高い効果が認められた。	
農業技術センター 病理昆虫部	【連絡先】 058-239-3135

【背景・ねらい】

ヒラズハナアザミウマはイチゴをはじめ多くの作物に寄生し、吸汁加害されたイチゴの果実は褐変や肥大不良、着色不良果となり、商品価値がなくなる（工藤、2003）。

作物の安定生産のためには定期的に本種の薬剤感受性をモニタリングして有効な薬剤を確認しておく必要がある。そこで、イチゴで使用頻度の高い薬剤を選定し、本種に対する有効な薬剤について調査した。

【成果の内容・特徴】

- 1 2023 年 5 月に岐阜地域のイチゴ圃場とシロツメクサ（雑草地）から、2024 年 5 月～8 月に西濃、東濃および郡上地域のイチゴ圃場からヒラズハナアザミウマの成虫を採集した。採集した個体群は芽出したソラマメを与えて飼育し、次世代以降の 2 齢幼虫または雌成虫を用いて薬剤感受性を調査した。試験はインゲン初生葉の食餌浸漬法で行い、薬剤処理 2 日後の補正死虫率を調査し、効果を判定した。
- 2 イチゴの「アザミウマ類」で登録のある薬剤について、スピノサド水和剤、スピネトラム水和剤、フルキサメタミド乳剤、脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤は、今回供試したすべての個体群に対し高い効果が認められた（表 1、表 2）。アセタミプリド水溶剤は、岐阜地域のイチゴから採集した個体群の 2 齢幼虫に対しては効果が低かったものの、雌成虫に対しては複数の個体群で効果が認められた（表 1、表 2）。
- 3 トルフェンピラド水和剤、スピロテトラマト水和剤およびピリダリル水和剤は、今回供試したすべての個体群に対し効果が低かった（表 1、表 2）。フロメトキン水和剤は、恵那市の 2 個体群に対し効果が認められたものの、他の個体群では効果が低かった（表 1、表 2）。
- 4 2023 年度は、イチゴで作物登録を有し、ヒラズハナアザミウマ以外の害虫に登録のある薬剤についても調査した。その結果、クロルフェナピル水和剤およびエマメクチン安息香酸塩乳剤は、複数の個体群で効果が認められた（表 3）。

【成果の活用・留意点】

- 1 本結果は薬剤処理 2 日後の殺虫効果を示している。補正死虫率の低い薬剤の食害抑制効果および産卵抑制効果等については、別途検討が必要である。
- 2 感受性低下を回避するため、同系統の薬剤を連用しない（IRAC コード参照）。
- 3 化学的防除、耕種的防除、物理的防除および生物的防除を組み合わせ、総合的に防除するのが望ましい。
- 4 訪花昆虫や天敵製剤を導入している場合は、これらに対する影響を考慮し、使用タイミングに注意する。

表1 イチゴの「アザミウマ類」で登録がある薬剤の岐阜地域から採集したヒラズハナアザミウマに対する効果									
IRAC コード	薬剤名	有効成分量 (%)	希釈倍数	2齢幼虫			雌成虫		
				岐阜市 又丸 (シロツメクサ)	岐阜市 次木 (イチゴ [*])	本巣市 (イチゴ [*])	岐阜市 又丸 (シロツメクサ)	岐阜市 次木 (イチゴ [*])	本巣市 (イチゴ [*])
4A	アセタミプリド水溶液	20.0	2,000	○	×	×	○	◎	△
5	スピノサド水和剤	25.0	5,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5	スピネトラム水和剤	11.7	2,500	◎	◎	◎	◎	◎	◎
23	スピロテトラマト水和剤	22.4	2,000	×	×	×	×	×	×
30	フルキサメタミド乳剤	10.0	2,000	○	◎	○	◎	◎	◎
34	フロメトキン水和剤	10.0	1,000	×	×	×	×	×	×
補正死虫率 (Abbott, 1925) ◎ : 90.0%以上 ○ : 70.0~89.9% △ : 50.0~69.9% × : 50.0%未満									

表2 イチゴの「アザミウマ類」で登録がある薬剤の西濃および東濃地域から採集したヒラズハナアザミウマ雌成虫に対する効果									
IRAC コード	薬剤名	有効成分量 (%)	希釈倍数	海津市 南濃町 (イチゴ [*])	海津市 海津町 (イチゴ [*])	恵那市 三郷町 (イチゴ [*])	恵那市 岩村町 (イチゴ [*])	中津川市 中津川 (イチゴ [*])	郡上市 高鷲町 (イチゴ [*])
4A	アセタミプリド水溶液	20.0	2,000	○	◎	◎	◎	◎	○
5	スピノサド水和剤	25.0	5,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎
5	スピネトラム水和剤	11.7	2,500	◎	◎	◎	◎	◎	◎
21A	トルフェンピラド水和剤	15.0	1,000	×	×	×	×	×	×
23	スピロテトラマト水和剤	22.4	2,000	×	×	×	×	×	×
30	フルキサメタミド乳剤	10.0	2,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎
34	フロメトキン水和剤	10.0	1,000	×	×	○	○	×	×
・5	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	75.0・5.0	1,000	◎	◎	◎	◎	◎	◎
UN	ピリダリル水和剤*	10.0	1,000	×	×	×	×	×	×
補正死虫率 (Abbott, 1925) ◎ : 90.0%以上 ○ : 70.0~89.9% △ : 50.0~69.9% × : 50.0%未満									
*2024年 イチゴの「アザミウマ類」で適用拡大された									

表3 イチゴの「アザミウマ類」で登録がない薬剤の岐阜地域から採集したヒラズハナアザミウマに対する効果									
IRAC コード	薬剤名	有効成分量 (%)	希釈倍数	2齢幼虫			雌成虫		
				岐阜市 又丸 (シロツメクサ)	岐阜市 次木 (イチゴ [*])	本巣市 (イチゴ [*])	岐阜市 又丸 (シロツメクサ)	岐阜市 次木 (イチゴ [*])	本巣市 (イチゴ [*])
(「ミカンキイロアザミウマ」で登録がある)									
13	クロルフェナビル水和剤	10.0	2,000	△	△	○	◎	◎	○
(他の害虫で登録がある)									
4A	ニテンピラム水溶液	10.0	2,000	△	×	×	△	○	×
6	エマメクチン安息香酸塩乳剤	1.0	2,000	○	○	○	◎	○	△
6	レピメクチン乳剤	1.0	1,000	×	×	×	×	×	×
29	フロニカミド水和剤	10.0	2,000	×	×	×	×	×	×
UN	ピリダリル水和剤*	10.0	1,000	×	×	×	×	×	×
補正死虫率 (Abbott, 1925) ◎ : 90.0%以上 ○ : 70.0～89.9% △ : 50.0～69.9% × : 50.0%未満									
*2023年 イチゴの「アザミウマ類」で登録はなかった									

参考文献

伊藤祐気 (2024) 関西病虫害研究会報 66 : 110-112

工藤 巖 (2003) 日本農業害虫大辞典 (梅谷献二・岡本利承編). 全国農村教育協会, 東京, pp. 275.

研究課題名：病虫害総管理技術推進対策事業（ヒラズハナアザミウマ）（令和5～6年度）

研究担当者：伊藤祐気